

生物の学習メカニズムの解明と動物とのふれあいがもたらすポジティブな効果の検証

Keywords : 学習心理学、条件づけ、因果推論、コンパニオンアニマル、アニマルセラピー

研究概要

私の専門は学習心理学です。心理学における「学習」とは、私たちヒトを含む様々な生物が、経験により行動を変化させることを指します。幅広い生物に共有されている学習のメカニズムを、実験を通じ明らかにするのが私の研究テーマです。多くの生物が共有している条件づけという単純な学習システムや、私たちヒトが得意とする因果推論などの高度な学習メカニズムについて、幅広く研究しています。

また、動物とふれあうことで得られるポジティブな効果、アニマルセラピーについても研究しています。ペットとのふれあい、水族館や動物園での経験、ペットに似たロボットとのかかわりなど、様々な形で動物とのふれあいがどのような心理的变化をもたらすのかについて研究を行っています。

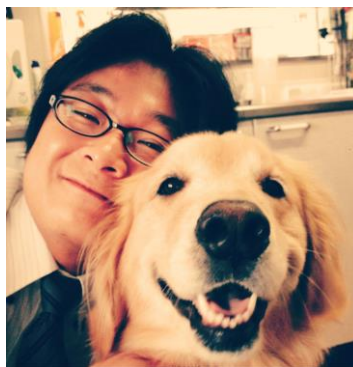
心理系専攻

教授

うるしはら こうじ

漆原 宏次

uru@socio.kindai.ac.jp



<http://researchmap.jp/kurushi>

研究テーマ

1. 関係性学習に関する研究

ヒトや動物は様々な経験を通じて、複数の事象を関係づけ、それに伴って行動を変化させます(関係性学習)。古典的条件づけ、オペラント条件づけなどは数多くの動物に共通してみられる代表的な関係性学習です。また、二つの出来事の生起がどれくらい関連しているかを判断する随伴性判断や、特定の出来事の原因を推測する因果推論は、私たちが日常的に行っている関係性学習です。この関係性学習がどのようなメカニズムで生じるのか、どのような条件下で生じ、どのように利用できるのかを明らかにするのが大きな研究テーマです。

関係性学習では、2つの事象、例えばAとBとの関係は、この2つだけで決まるのではなく、CとBとの関係や、AとDとの関係など、2つの事象以外の他の事象との関係

にも影響されます。このような現象は、あたかも事象(刺激)が関係を競い合っているように見えるため、刺激競合と呼ばれます。この刺激競合現象はヒトだけでなく、様々な動物の学習にも広く見られます。現在の主要な研究テーマの一つが、この刺激競合現象のメカニズムを様々な実験を工夫して明らかにするというものです。

2. アニマルセラピーの効果に関する研究

可愛い動物とふれあって癒されたことがあるひとは多いと思います。この、動物とのふれあいがもたらす癒しの効果とはどのようなものか、なぜ起こるのかを、実験により明らかにしようとしています。実際に大型犬とふれあうことでどのような効果が生じるのか、水族館での経験にはどのような効果があるのか、動物から得られる癒し

は、ほかのさまざまな経験から得られる癒しとどのように似ておりどのような点で異なるのか、ペットを模したロボットや、画面内でふれあうことのできるペット(ヴァ

ーチャルペット)は、動物とのふれあいと同様の効果を持つのか、など、様々な観点からアニマルセラピーの効果を検証しています。

論文・作品・表彰・特許等

- Urushihara, K., & Miller, R. R. (2017). Causal superlearning arising from interactions among cues. *Journal of Experimental Psychology: Animal Learning and Cognition*, 43, 183-196.
- Urushihara, K., & Miller, R. R. (2010). Backward blocking in first-order conditioning. *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes*, 36, 281-295.
- Urushihara, K., & Miller, R. R. (2009). Stimulus competition between a discrete cue and a training context: Cue competition does not result from the division of a limited resource. *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes*, 35, 197-211.
- Urushihara, K., & Miller, R. R. (2006). Overshadowing and the outcome-alone exposure effect counteract each other. *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes*, 32, 253-270.
- Urushihara, K., Wheeler, D. S., Pineño, O., & Miller, R. R. (2005). An extended comparator hypothesis account of superconditioning. *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes*, 31, 184-198.
- Urushihara, K., Stout, S. C., & Miller, R. R. (2004). The basic laws of conditioning differ for elemental cues and cues trained in compound. *Psychological Science*, 15, 268-271.
- Urushihara, K., Wheeler, D. S., & Miller, R. R. (2004). Outcome pre- and post-exposure effects: Retention interval interacts with primacy and recency. *Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes*, 30, 283-298.
- 漆原宏次・播磨谷莉穂・皆川春咲・北条弘晟(2024). 大型犬との短時間のふれあいによる疲労低減効果の実験的検討—セラピー犬とのふれあいによる癒し効果—. 近畿大学総合社会学部紀要, 12(2), 75-88.
- 漆原宏次・伊藤(漆原)麻衣(2023). 大型犬との短時間のふれあいがもたらす心理的効果の実験的検討—気分および運動に伴う快感に注目して—. 近畿大学総合社会学部紀要 12(1), 3-14.
- 漆原宏次・古野良祐・皆川春咲・播磨谷莉穂(2023). 大型犬を用いた短時間の動物介在活動により得られる心理的効果の実験的検討—心理尺度と潜在連合テスト(IAT)を用いて—. 近畿大学総合社会学部紀要 11(2), 1-14.
- 漆原宏次・伊藤麻衣(2016). 大型犬とのふれあいがもたらす短期・長期心理的効果の検討—動物介在活動の効果に関する予備調査—. 北海道医療大学心理科学部研究紀要, 12, 21-30.

趣味

研究、ブラジリアン柔術、愛犬とふれあう、楽器(Bass)演奏、読書(マンガ含む)、他にもいろいろ

ゼミの宣伝

ゼミでは学習心理学とアニマルセラピー、二つのテーマを取り扱います。ゼミには和気あいあいと楽しく参加してもらいたいと思いますが、勉強するとき、研究するときにはスイッチを切り替えて、真剣に取り組んでください。普段は力を抜いていてもやるときにはしっかりやる、という姿勢で、メリハリを利かせた学生生活を送りましょう！